

# 「資格」なくともマッサージ

## 「クイック」・接骨院が市場を拡大

疲れた体をもみほぐしてくれるマッサージの店が次々とできている。「クイックマッサージ」や「リフレクソロジー」を掲げる店に加えて、「健康保険がきいて安くなる」とアピールするところも増えてきた。癒やしブームに乗って膨らむマッサージ業界。ところが、本格的にマッサージを学んで国家資格をとった人たちが追いつめられている。

「全身ほぐして千円。安いです。11月中旬、東京都内の会社員女性(28)は、無料情報誌の広告にひかれて、その店を訪ねた。これまで受けたマッサージでは数千円はとられていた。雑居ビル内の店は、白っぽい内装で清潔感があった。ベッドに横たわり、20分ほど腰を中心にほぐしてもらった。受付で料金を払うと、「次回は保険証があれば安くになります」。病気でもないのに、保険がきくのだろうか。少し不思議に思った。

数日後、同じ無料誌に広告があった別の店にも行った。受付で申し込むと、なぜか自分の氏名がすでに知られている。店をチェーン展開していて、数日前に行った店は系列店なので、氏名が登録されているという。帰りに、やはり保険証の存在を告げられた。その後、持参

して行ったら、腰痛になった日時と原因を書くよう求められた。迷っていると、「ジムに行

たなら、その時にひねった」とにしますよ。意味がよくわからなかったが、うなずいた。店で渡されたカードを見て驚いた。「診察券」とあり、店名にも「接骨院」と書いてある。接骨院に通ったのは、肩を脱臼した高校生のとき以来だ。「接骨院もこういうマッサージをするなんて知らなかった」

同じ年ごろの友人たちに話すと、「もっと安いところがあるよ。それだけインターネットや口コミで、お気に入りの接骨院を見つけているらしい。接骨院で保険がきくのは、これまである柔道整復師に医療にも、こういう看板は必要

ではない。社会問題化している「接骨院の不正請求」だ。名古屋市昭和区の接骨院は着「マッサージ、カイロプラティック、アロメセラピー」を謳っていた。接骨院の広告は単で厳しく制限され、看板や

背景にあるのは過当競争だ。柔整師の養成学校は、この10年で7倍に急増、その卒業生たちが次々と開業している。

こうして膨張する接骨院に若利用者が通う。医療費の内訳では、40代以下が4割強を占める。後期高齢者医療制度に引き継がれた老人保健でも、医療費支給額の全体がほぼ横ばいなのか、接骨院への支給額は減り続けている。これに対し、中小企業の現役サラリーマンが入る政府管掌健康保険(現・協会けんぽ)からの支給額は08年度から伸びる一方だ。グラフ。

## あん摩さん苦境

国家資格の柔道整復師が開業する骨折やねんざなどのケガを治療すれば健康保険を請求できるが、単なる肩こりや腰痛へのマッサージで請求するのは違法

「整体」や「カイロ」は別物で、いずれも国家資格ではない

接骨院に通ったのは、肩を脱臼した高校生のとき以来だ。「接骨院もこういうマッサージをするなんて知らなかった」

「健康保険」の請求が認めらる」と主張する。業界団体の愛知県柔道整復師会では昨年10月から、こうした違背の五つケガの治療のみ、性の強い広告を集め、保健所

接骨院の「マッサージ店化」には別の問題もある。「接骨院は私たちが通う資格。なぜ私たちの患者を奪うのか」。東京都葛飾区のあるあん摩マッサージ指圧師の男性(58)は周りに接骨院が次々とできる現状にため息をつく。生まれたときから目に障害があり「あん摩さんになる以外、考えられなかった」。4年前、駅前に開業。最近、ふらふらと来る患者に「保険がききますか」とよく聞かれる。「医師の同意がないとダメ」と答えると「じゃあ、いいです」と立ち去ってしまう。

板橋区の自宅で開業する男性(70)は「接骨院と競争なんてできない」と嘆く。全言なので外に出てチラシを配るのは難しい。1人で書類も作れないから保険請求も断念している。患者は月に20〜80人で、ピーク時の10分の1だという。

視覚障害者は江戸時代からマッサージで生計を立ててきたといわれる。近年、視覚障害者が反発してきたのは「クイック

# report

## クイックマッサージ リフレクソロジー

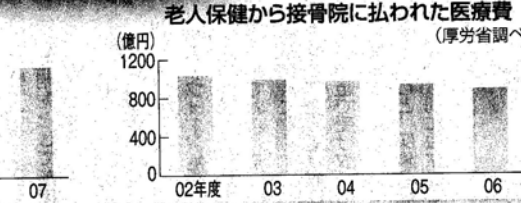
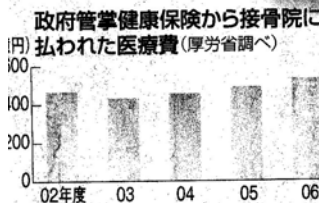
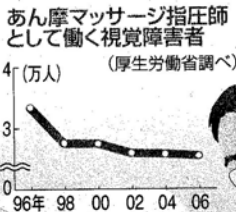
国家資格ではなく、開業者数は不明  
「タイ式」「足裏」など、さまざまな種類があるが、いずれも法律の定義はない  
人体に害を及ぼすおそれがあるとみなされれば、「無免許マッサージ」として警察の取り締まりの対象に



## マッサージ業界 異変

### あん摩 マッサージ 指圧師

- 国家資格で、マッサージを商売にできる
- 視覚障害者が4分の1を占める
- 医師が同意した治療なら、健康保険を請求できる



グラフィック・山田 英利子 / The Asahi Shimbun

「接骨院は私たちが通う資格。なぜ私たちの患者を奪うのか」。東京都葛飾区のあるあん摩マッサージ指圧師の男性(58)は周りに接骨院が次々とできる現状にため息をつく。生まれたときから目に障害があり「あん摩さんになる以外、考えられなかった」。4年前、駅前に開業。最近、ふらふらと来る患者に「保険がききますか」とよく聞かれる。「医師の同意がないとダメ」と答えると「じゃあ、いいです」と立ち去ってしまう。

板橋区の自宅で開業する男性(70)は「接骨院と競争なんてできない」と嘆く。全言なので外に出てチラシを配るのは難しい。1人で書類も作れないから保険請求も断念している。患者は月に20〜80人で、ピーク時の10分の1だという。

視覚障害者は江戸時代からマッサージで生計を立ててきたといわれる。近年、視覚障害者が反発してきたのは「クイック

「接骨院の不正請求」だ。名古屋市昭和区の接骨院は着「マッサージ、カイロプラティック、アロメセラピー」を謳っていた。接骨院の広告は単で厳しく制限され、看板や背景にあるのは過当競争だ。柔整師の養成学校は、この10年で7倍に急増、その卒業生たちが次々と開業している。

こうして膨張する接骨院に若利用者が通う。医療費の内訳では、40代以下が4割強を占める。後期高齢者医療制度に引き継がれた老人保健でも、医療費支給額の全体がほぼ横ばいなのか、接骨院への支給額は減り続けている。これに対し、中小企業の現役サラリーマンが入る政府管掌健康保険(現・協会けんぽ)からの支給額は08年度から伸びる一方だ。グラフ。

「接骨院の不正請求」だ。名古屋市昭和区の接骨院は着「マッサージ、カイロプラティック、アロメセラピー」を謳っていた。接骨院の広告は単で厳しく制限され、看板や背景にあるのは過当競争だ。柔整師の養成学校は、この10年で7倍に急増、その卒業生たちが次々と開業している。

「接骨院の不正請求」だ。名古屋市昭和区の接骨院は着「マッサージ、カイロプラティック、アロメセラピー」を謳っていた。接骨院の広告は単で厳しく制限され、看板や背景にあるのは過当競争だ。柔整師の養成学校は、この10年で7倍に急増、その卒業生たちが次々と開業している。

こうして膨張する接骨院に若利用者が通う。医療費の内訳では、40代以下が4割強を占める。後期高齢者医療制度に引き継がれた老人保健でも、医療費支給額の全体がほぼ横ばいなのか、接骨院への支給額は減り続けている。これに対し、中小企業の現役サラリーマンが入る政府管掌健康保険(現・協会けんぽ)からの支給額は08年度から伸びる一方だ。グラフ。

「接骨院の不正請求」だ。名古屋市昭和区の接骨院は着「マッサージ、カイロプラティック、アロメセラピー」を謳っていた。接骨院の広告は単で厳しく制限され、看板や背景にあるのは過当競争だ。柔整師の養成学校は、この10年で7倍に急増、その卒業生たちが次々と開業している。